

平成30年3月23日
 東部農林振興センター出雲事務所農業普及部

標 題	平成30年度多伎いちじく生産部会定期総会が開催～多伎いちじく産地再生プロジェクトが本格的にスタート
-----	---

(ダイジェスト)

3月22日、多伎いちじく生産部会定期総会が開催されました。年次計画では「多伎いちじく産地再生プロジェクト」を本格的に稼働させることが採択され、平成31年度リース団地造成に向けて大きく動き始めました。栽培面積の確保、担い手の育成を行い、今後さらなる産地発展が期待されます。

3月22日、多伎いちじく生産部会（立脇渉部会長、部会員90名）の平成30年定期総会が参加者約60名で開催されました。

去年は、収穫前半は高温により需要を大きく上回る出荷があり単価の低下を招き、後半は長雨等により出荷が落ち込み、「収量減、単価安」と厳しい販売状況でありました。

これらの遠因には老木化等による樹勢低下、生産者の高齢化（平均年齢72.0歳）による担い手の減少などがあります。

これを食い止めるため、数年前にリース団地構想が持ち上がり、本総会ではこのリース団地構想を強力に推進するよう、「産地再生プロジェクト」を本格的に稼働させることが提案され、承認されました。



平成30年度多伎いちじく生産部会総会の様子

鎌田出雲事務所長から、①ネコブセンチュウ防除を始めとした樹勢回復の実践、②GAPへの取り組みの検討、③産地ビジョンづくりの検討を行ってほしいと挨拶があり、参加者は真剣に聞いていました。

今後、当農業普及部では「産地再生プロジェクト」の積極的な支援や、産地ビジョンづくりの支援など産地の活性化を目指した普及活動を行っていきます。